

第19回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

1 はじめに

OKB総研では、毎年、岐阜・愛知・三重・滋賀県などに在住の主婦を対象に「主婦の消費行動に関するアンケート」を実施している。

金融緩和などを柱とする「アベノミクス」の効果もあって、金融市場や雇用の改善はみられるものの、物価は上がりデフレ脱却途上にある中、この地域的主婦がどのような消費行動をしているのか、以下でその実態を明らかにしたい。

2 調査概要

本調査の概要は以下のとおりである。

回答者属性

- (1) 調査時期:2016年11月8日～11月11日
- (2) 調査方法:OKB大垣共立銀行本支店(東京・大阪を除く)に来訪した主婦^(*)791人にアンケート用紙を配布・回収
- (3) 有効回答数:775名(有効回答率98.0%)
- (4) 回答者属性

年代	20歳代	7.1%
	30歳代	16.3%
	40歳代	31.1%
	50歳代	28.4%
	60歳以上	17.2%
住所	岐阜県	55.5%
	愛知県	40.9%
	三重県	1.8%
	滋賀県	1.8%
就業形態	専業主婦	13.4%
	正社員・公務員・自営業	44.8%
	パートタイマー	38.8%
	内職・その他	3.0%

(注)数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)
 ※本調査における「主婦」とは、既婚女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

3 定例調査

(1) 主婦の景気判断

最初に、消費行動を左右する景況感と物価観を概観する。

A. 主婦の景況感

「2016年の景気は、2015年と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」は全体の3.0%と前年から5.6ポイント低下、「悪くなった」は29.7%と前年から10.1ポイント上昇した(図表1)。

全ての年代・住所・就業形態において、「良くなった」、「変わらない」の回答率が低下、「悪くなった」は上

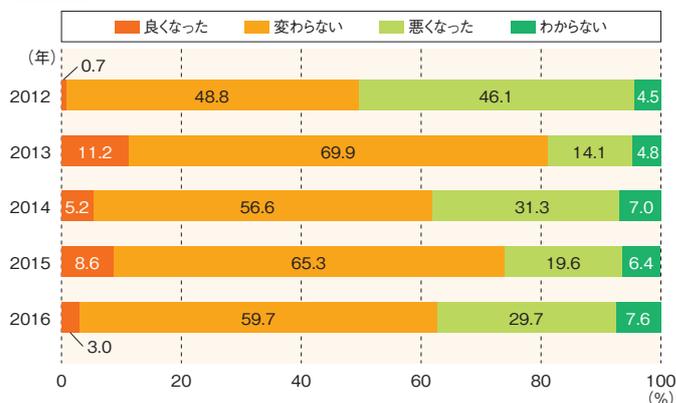
昇した。また、「変わらない」という回答率は、60歳以上を除いて最も多く、景況感は2015年に引き続き厳しいものとなった(図表2)。

景況D.I.(「良くなった」-「悪くなった」の回答率の差)は、前年の▲11.0%ポイントから悪化し、▲26.7%ポイントとなった(図表3)。

B. 主婦の物価観

「2016年の物価は、2015年と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」が全体の72.4%と前年から2.5ポイントの低下、「安くなった」は0.4%と前年から0.3ポイントの上昇となった(図表4)。

図表1 主婦の景況感(全体)の推移



図表2 主婦の景況感(属性別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	3.0 (▲5.6)	59.7 (▲5.6)	29.7 (10.1)	7.6 (1.2)
20歳代	7.3 (▲5.2)	61.8 (▲9.6)	16.4 (5.7)	14.5 (9.1)
30歳代	2.4 (▲5.5)	67.5 (▲2.3)	17.5 (6.4)	12.7 (1.6)
40歳代	2.1 (▲5.3)	68.9 (▲4.8)	23.2 (7.6)	5.8 (2.5)
50歳代	3.2 (▲4.6)	54.3 (▲7.2)	36.5 (11.8)	5.9 (▲0.2)
60歳以上	3.0 (▲8.4)	43.6 (▲5.2)	47.4 (16.5)	6.0 (▲2.9)
岐阜県	2.1 (▲6.1)	63.2 (▲0.7)	29.1 (7.7)	5.6 (▲0.9)
愛知県	4.1 (▲5.6)	55.5 (▲12.2)	30.0 (14.3)	10.4 (3.5)
専業主婦	2.9 (▲9.8)	48.1 (▲8.3)	34.6 (14.6)	14.4 (3.5)
正社員等	3.8 (▲7.0)	59.2 (▲3.2)	30.1 (10.4)	6.9 (▲0.2)
パート	2.3 (▲2.5)	64.1 (▲7.6)	27.6 (8.9)	6.0 (1.2)

(注)括弧内は、前年差を示す。

「高くなった」という回答率は低下したものの、全ての属性において7割を超えており、全体として物価上昇が意識されていることがうかがえた(図表5)。

また、物価D.I.（「高くなった」－「安くなった」の回答率の差）は72.0%ポイントと前年から2.8%ポイント低下した(図表6)。

(2) 家計について

次に、家計の収支動向を見てみる。

A. 家計の収入

「2016年の家計収入は、2015年と比べてどうになりましたか」と尋ねたところ、「増えた」が全体の16.7%と前年から0.5ポイント低下、「減った」

は28.9%と前年から4.1ポイントの上昇となった。家計収入について、「変わらない」と「減った」の回答率の合計は8割を超え、厳しい家計状況がうかがえた(図表7)。

年代別では、家計収入が「増えた」という回答率が上昇したのは30歳代のみで、「減った」という回答率は50歳代で3割以上、60歳以上で4割以上に及んだ。また、ほぼ全ての属性において、「変わらない」が約5～6割となり、家計が厳しい環境にあることが分かった(図表8)。

B. 家計の支出

一方、「2016年の家計支出は、2015年と比べてどうになりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の

59.9%と前年から8.0ポイントの低下、「減った」は7.4%と前年から3.3ポイントの上昇となった(図表9)。

年代・住所・就業形態別にみると、20歳代において「増えた」という回答率が前年より10%以上上昇し、75.9%となった。それ以外の属性では、「増えた」という回答率が前年より低下したものの、約5～7割を占め、総体的に家計支出は増加したことが分かった(図表10)。

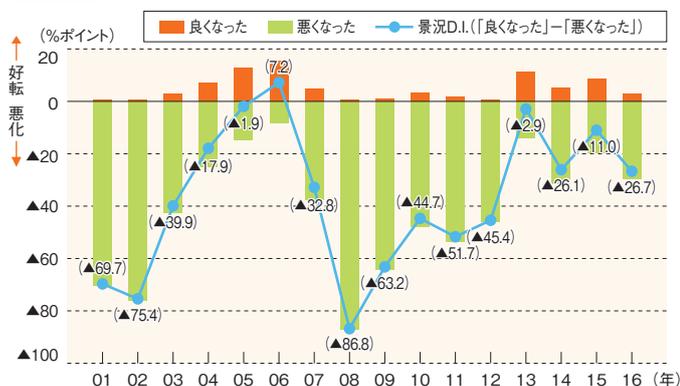
C. 家計支出の費目別動向

それでは、家計支出の費目別の動向はどうだろうか。以下に詳しく見てみたい。

(a) 支出増加費目／支出減少費目

「2016年の家計支出を考えたとき、

図表3 主婦の景況D.I.の推移

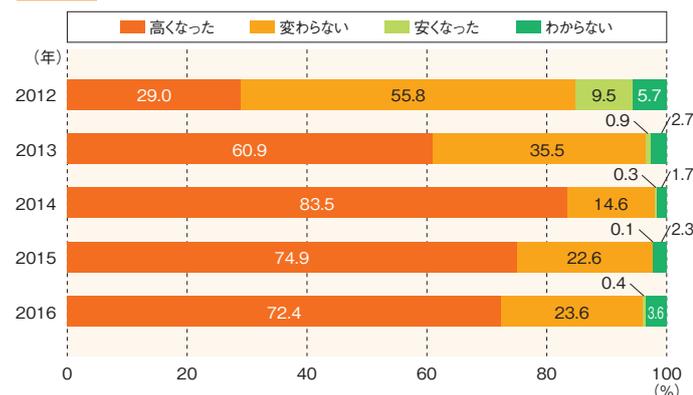


図表5 主婦の物価観(属性別)

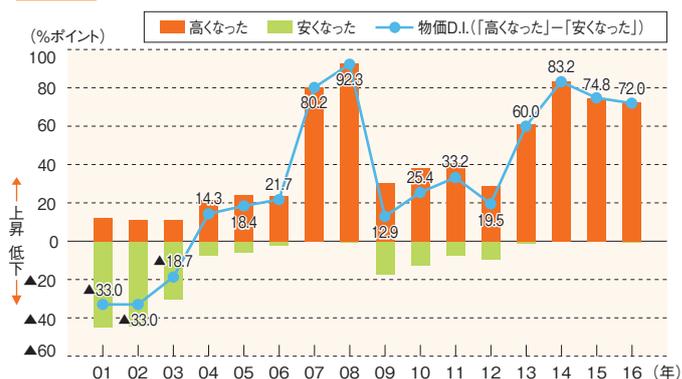
	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	72.4 (▲2.5)	23.6 (1.0)	0.4 (0.3)	3.6 (1.3)
20歳代	74.5 (▲2.3)	16.4 (▲5.0)	1.8 (1.8)	7.3 (5.5)
30歳代	71.4 (0.8)	24.6 (1.6)	0.0 (0.0)	4.0 (▲2.3)
40歳代	72.6 (▲1.0)	24.9 (0.1)	0.0 (▲0.4)	2.5 (1.3)
50歳代	70.8 (▲2.8)	26.5 (2.3)	0.0 (0.0)	2.7 (0.5)
60歳以上	74.4 (▲9.3)	18.8 (3.4)	1.5 (1.5)	5.3 (4.5)
岐阜県	71.6 (▲1.8)	25.2 (1.6)	0.5 (0.3)	2.8 (0.0)
愛知県	73.5 (▲3.3)	21.5 (0.2)	0.3 (0.3)	4.7 (2.8)
専業主婦	70.2 (▲1.6)	23.1 (3.1)	1.0 (0.1)	5.8 (▲1.5)
正社員等	70.5 (▲3.6)	24.9 (0.8)	0.6 (0.6)	4.0 (2.3)
パート	75.4 (0.0)	22.9 (▲0.3)	0.0 (0.0)	1.7 (0.3)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表4 主婦の物価観(全体)の推移



図表6 主婦の物価D.I.の推移



第19回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

2015年より支出が増えた費目は何ですか(あてはまるものを全て選択)」と尋ねたところ、長雨や台風などによる野菜の価格高騰が家計を直撃したこともあり「食費」(53.2%)がトップとなり、ついで「教育費」(27.4%)、「交通・通信費」(25.0%)となった(図表11、図表12)。

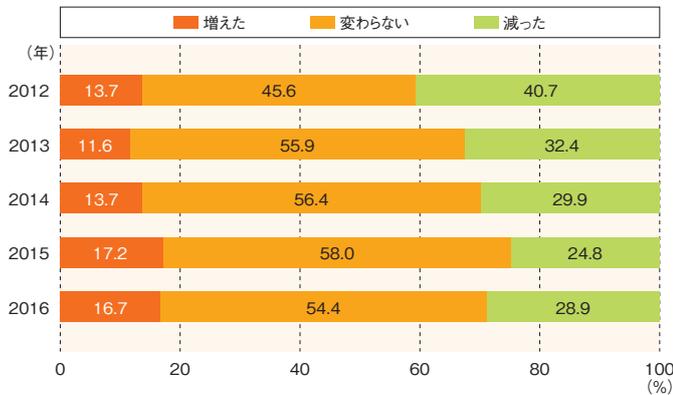
支出が増えた上位7費目の推移を見ると、「食費」、「交通・通信費」、「光熱・水道費」は、前回調査よりも「増えた」という回答率が5%超低下、「レジャー費」以外の3費目も低下しており、様々な費目において支出を抑制していることがうかがえた。

また、「2016年の家計支出を考え

たとき、2015年より支出が減った費目は何ですか(あてはまるものを全て選択)」と尋ねたところ、「レジャー費」が31.4%でトップとなり、ついで「衣料費」(24.4%)、「外食費」(24.1%)となった(図表13、図表14)。

支出が減った上位7費目の推移を見ると、上位3費目は2002年から

図表7 家計収入(全体)の推移

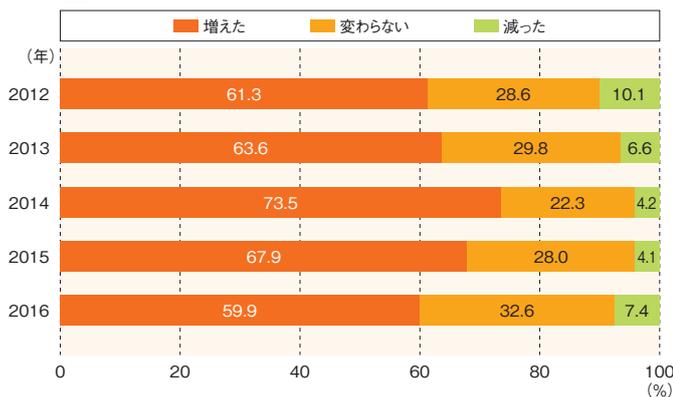


図表8 家計収入(属性別)

	増えた (%)	変わらない (%)	減った (%)
全体	16.7 (▲0.5)	54.4 (▲3.6)	28.9 (4.1)
20歳代	27.8 (▲0.8)	51.9 (▲7.0)	20.4 (7.9)
30歳代	33.1 (2.7)	51.6 (▲4.4)	15.3 (1.7)
40歳代	15.9 (▲1.0)	62.8 (▲3.9)	21.3 (4.8)
50歳代	11.4 (▲0.3)	51.6 (▲3.8)	37.0 (4.1)
60歳以上	6.9 (▲2.9)	47.7 (0.5)	45.4 (2.3)
岐阜県	14.9 (▲0.3)	55.0 (▲4.7)	30.2 (5.0)
愛知県	19.7 (▲0.4)	53.2 (▲3.1)	27.1 (3.5)
専業主婦	20.8 (▲0.1)	43.6 (▲4.6)	35.6 (4.7)
正社員等	19.0 (▲0.7)	53.6 (▲3.5)	27.4 (4.3)
パート	12.4 (▲2.3)	59.9 (▲1.3)	27.8 (3.7)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表9 家計支出(全体)の推移

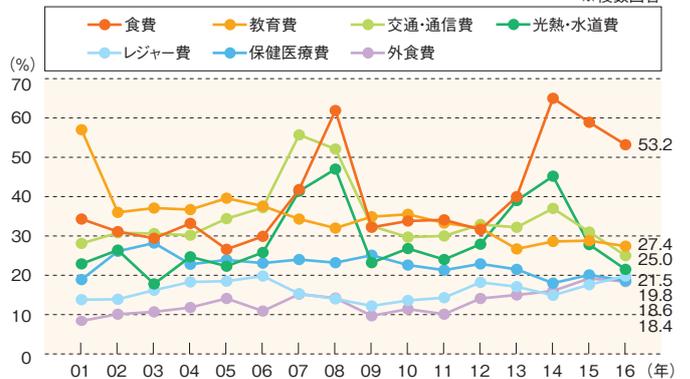


図表10 家計支出(属性別)

	増えた (%)	変わらない (%)	減った (%)
全体	59.9 (▲8.0)	32.6 (4.6)	7.4 (3.3)
20歳代	75.9 (11.6)	20.4 (▲15.3)	3.7 (3.7)
30歳代	64.0 (▲13.6)	32.0 (11.2)	4.0 (2.4)
40歳代	66.5 (▲8.7)	27.6 (6.1)	5.9 (2.6)
50歳代	52.3 (▲6.4)	37.7 (2.9)	10.0 (3.5)
60歳以上	50.4 (▲12.2)	38.9 (7.2)	10.7 (5.0)
岐阜県	60.5 (▲7.6)	32.7 (6.0)	6.8 (1.6)
愛知県	58.9 (▲8.7)	33.2 (3.6)	7.9 (5.1)
専業主婦	61.8 (▲8.8)	30.4 (3.8)	7.8 (5.0)
正社員等	59.0 (▲6.2)	31.7 (0.6)	9.3 (5.5)
パート	60.3 (▲8.3)	34.3 (7.7)	5.3 (0.5)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表11 支出が増えた費目の推移(上位7費目)



図表12 支出が増えた費目(上位7費目、属性別)

	食費 (%)	教育費 (%)	交通・通信費 (%)	光熱・水道費 (%)	レジャー費 (%)	保健医療費 (%)	外食費 (%)
全体	53.2 (▲5.7)	27.4 (▲1.4)	25.0 (▲6.0)	21.5 (▲6.3)	19.8 (2.2)	18.6 (▲1.5)	18.4 (▲0.8)
20歳代	67.9 (▲1.7)	3.8 (▲6.9)	11.3 (▲19.1)	20.8 (▲4.2)	17.0 (▲6.2)	1.9 (▲12.4)	17.0 (▲13.4)
30歳代	64.0 (▲4.6)	37.6 (▲5.4)	24.0 (▲0.8)	17.6 (▲8.8)	22.4 (▲1.6)	13.6 (2.9)	23.2 (▲0.8)
40歳代	54.5 (▲1.0)	56.6 (▲0.1)	23.8 (▲10.2)	19.6 (▲7.3)	14.0 (3.5)	14.9 (1.0)	12.3 (▲2.8)
50歳代	43.7 (▲9.7)	10.2 (▲0.1)	28.4 (▲8.8)	23.3 (▲6.7)	22.8 (2.6)	21.9 (1.3)	20.0 (2.1)
60歳以上	50.0 (▲11.0)	1.6 (▲0.1)	28.2 (8.7)	26.6 (▲1.4)	24.2 (6.4)	32.3 (▲11.8)	22.6 (3.1)
岐阜県	50.5 (▲10.4)	27.9 (▲3.4)	23.8 (▲8.9)	20.6 (▲8.0)	16.7 (0.2)	18.7 (▲1.3)	15.8 (▲1.4)
愛知県	56.7 (0.5)	26.6 (1.1)	25.6 (▲3.2)	23.7 (▲3.1)	23.4 (4.4)	17.9 (▲1.4)	21.8 (▲0.4)
専業主婦	58.2 (▲11.2)	18.4 (▲2.9)	23.5 (1.3)	25.5 (▲10.6)	24.5 (6.0)	23.5 (▲6.1)	22.4 (8.5)
正社員等	52.1 (▲5.8)	24.0 (1.5)	24.0 (▲3.1)	22.2 (▲4.6)	20.1 (1.9)	18.3 (1.5)	17.7 (▲7.7)
パート	53.2 (▲3.9)	34.0 (▲2.6)	26.3 (▲10.9)	19.2 (▲7.0)	18.5 (2.1)	16.8 (▲2.2)	17.5 (2.5)

(注1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(注2)括弧内は、前年差を示す。

順位の変動はあるものの変わっていない。また上位3費目の水準をみると、いずれも2年連続で低下している。

(b) 今以上に切り詰めたい費目／増やしたい費目

続いて、今後の消費についてどのように考えているのかを見てみたい。

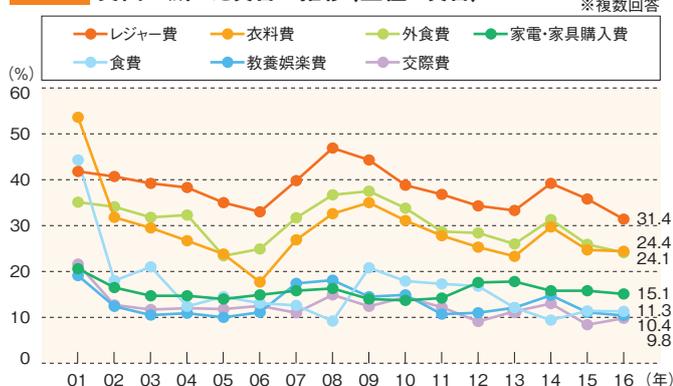
「2016年の家計支出を考えたとき、今以上に切り詰めたい費目は何か(3つまで選択)」と尋ねたところ、「食費」(37.2%)がトップとなり、ついで「光熱・水道費」(35.0%)、「外食費」(34.2%)となった(図表15)。

上位3費目は10年連続でトップ3を

占めている。年代別に見ると、20歳代、30歳代は「外食費」、40歳代は「食費」、50歳代は「食費」と「光熱・水道費」、60歳以上は「衣料費」がトップとなり、年代によって切り詰めたい費目にばらつきがみられた。

これに対して、「2016年の家計支出を考えたとき、今以上に支出を増

図表13 支出が減った費目の推移(上位7費目)



図表14 支出が減った費目(上位7費目、属性別)

	レジャー費	衣料費	外食費	家電・家具購入費	食費	教養娯楽費	交際費
全体	31.4 (▲4.4)	24.4 (▲0.3)	24.1 (▲1.8)	15.1 (▲0.7)	11.3 (▲0.1)	10.4 (▲0.7)	9.8 (1.4)
20歳代	22.7 (▲0.8)	18.2 (▲9.3)	22.7 (▲2.8)	13.6 (▲8.0)	9.1 (3.2)	11.4 (3.6)	20.5 (12.7)
30歳代	32.4 (▲6.9)	15.7 (▲2.3)	22.5 (4.5)	19.6 (2.7)	7.8 (▲0.1)	6.9 (▲4.3)	5.9 (▲3.1)
40歳代	35.6 (▲10.3)	19.8 (▲0.1)	28.7 (4.2)	14.9 (1.1)	9.4 (▲3.4)	11.4 (▲0.3)	8.9 (▲0.8)
50歳代	28.6 (▲2.6)	29.7 (4.0)	19.3 (▲11.9)	13.5 (▲1.4)	14.6 (2.2)	9.4 (1.0)	9.4 (3.0)
60歳以上	30.8 (3.1)	34.6 (▲2.6)	26.0 (0.5)	14.4 (▲3.7)	13.5 (0.7)	13.5 (▲3.5)	11.5 (1.9)
岐阜県	34.3 (▲2.3)	23.1 (▲2.3)	27.5 (▲1.2)	13.2 (▲3.4)	12.1 (1.4)	10.4 (▲0.9)	7.1 (▲1.6)
愛知県	28.2 (▲6.3)	26.3 (3.0)	18.9 (▲2.0)	17.0 (0.9)	10.4 (▲2.9)	9.3 (▲2.3)	13.1 (5.1)
専業主婦	24.4 (▲13.4)	24.4 (▲8.5)	24.4 (▲3.6)	14.0 (0.6)	10.5 (0.7)	8.1 (▲0.4)	10.5 (4.4)
正社員等	33.6 (4.8)	24.6 (0.9)	21.8 (▲3.2)	16.8 (▲0.6)	10.4 (▲1.9)	10.4 (▲2.3)	10.7 (1.4)
パート	28.7 (▲12.3)	24.8 (2.4)	27.1 (0.0)	14.3 (▲1.6)	12.0 (0.8)	11.2 (0.0)	8.1 (0.0)

(注1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(注2)括弧内は、前年差を示す。

図表15 今以上に切り詰めたい費目(上位7費目、属性別)

	食費	光熱・水道費	外食費	衣料費	レジャー費	交通・通信費	家電・家具購入費
全体	37.2 (▲4.6)	35.0 (▲5.5)	34.2 (▲2.8)	23.8 (0.7)	18.5 (3.8)	14.7 (▲2.0)	10.7 (▲1.5)
20歳代	38.5 (▲4.1)	28.8 (▲13.8)	44.2 (▲0.2)	15.4 (2.4)	17.3 (8.0)	9.6 (▲14.5)	15.4 (8.0)
30歳代	40.5 (▲2.5)	28.1 (▲9.9)	50.4 (4.9)	21.5 (0.8)	23.1 (8.2)	16.5 (▲6.6)	4.1 (▲8.3)
40歳代	38.7 (▲3.8)	38.3 (▲2.5)	34.3 (▲9.0)	17.0 (▲1.0)	15.7 (▲1.0)	15.2 (2.3)	11.7 (▲1.2)
50歳代	38.5 (▲6.2)	38.5 (▲9.9)	26.4 (▲4.5)	26.4 (0.1)	16.3 (3.9)	14.9 (▲2.6)	12.0 (▲1.8)
60歳以上	27.7 (▲5.0)	32.1 (5.7)	25.9 (3.2)	39.3 (3.8)	24.1 (6.8)	13.4 (0.7)	10.7 (0.7)
岐阜県	37.6 (▲4.5)	34.3 (▲5.3)	33.3 (▲2.1)	24.6 (1.1)	19.5 (3.4)	14.0 (▲2.6)	10.3 (▲3.8)
愛知県	36.5 (▲4.8)	35.5 (▲5.5)	35.8 (▲2.5)	22.7 (0.0)	17.7 (4.7)	14.7 (▲2.6)	11.4 (1.7)
専業主婦	35.1 (▲7.1)	36.2 (▲4.0)	33.0 (▲2.3)	27.7 (▲4.7)	21.3 (5.6)	23.4 (2.8)	8.5 (▲1.3)
正社員等	35.4 (▲4.5)	31.3 (▲6.3)	34.2 (▲2.0)	23.7 (1.9)	17.1 (2.7)	13.3 (▲2.6)	12.0 (▲0.5)
パート	39.8 (▲3.6)	38.1 (▲5.0)	33.7 (▲3.5)	22.8 (1.4)	19.7 (4.7)	13.6 (▲3.1)	8.5 (▲4.7)

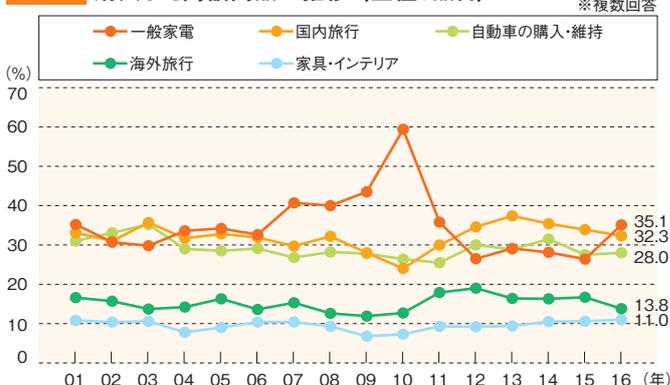
(注1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(注2)括弧内は、前年差を示す。

図表16 今以上に支出を増やしたい費目(上位7費目、属性別)

	レジャー費	教育費	教養娯楽費	住居費	家電・家具購入費	外食費	食費
全体	49.0 (0.5)	20.6 (1.7)	18.5 (▲2.3)	11.1 (▲0.4)	11.1 (▲0.4)	11.1 (0.6)	11.0 (0.5)
20歳代	45.5 (▲0.5)	25.0 (13.0)	13.6 (▲4.4)	6.8 (4.8)	13.6 (5.6)	9.1 (▲8.9)	11.4 (3.4)
30歳代	44.2 (3.0)	44.2 (▲0.5)	17.7 (▲3.4)	4.4 (1.8)	8.0 (▲4.3)	5.3 (▲1.7)	15.0 (3.6)
40歳代	50.2 (6.0)	30.7 (▲0.5)	14.1 (▲4.0)	8.3 (0.8)	10.7 (▲1.4)	13.7 (4.7)	13.2 (1.6)
50歳代	50.5 (▲6.2)	4.3 (1.8)	19.0 (▲2.4)	13.0 (▲4.9)	13.6 (0.2)	10.3 (1.8)	6.5 (▲2.5)
60歳以上	50.5 (0.5)	1.0 (0.0)	29.7 (3.7)	22.8 (0.9)	9.9 (2.6)	14.9 (▲2.8)	9.9 (▲1.6)
岐阜県	46.7 (▲2.7)	21.7 (4.1)	18.4 (▲4.5)	11.3 (▲1.3)	11.8 (▲1.0)	11.8 (2.3)	9.6 (0.1)
愛知県	51.0 (2.6)	19.0 (▲0.5)	19.0 (0.6)	11.8 (1.3)	10.3 (0.2)	10.6 (▲2.0)	12.2 (1.4)
専業主婦	45.9 (▲7.9)	28.2 (5.6)	25.9 (▲3.1)	5.9 (▲5.9)	8.2 (0.7)	15.3 (3.5)	17.6 (4.7)
正社員等	53.4 (9.6)	16.0 (▲1.5)	19.2 (▲1.9)	11.0 (0.2)	11.4 (▲1.0)	13.5 (3.5)	9.6 (▲0.8)
パート	44.9 (▲5.4)	23.2 (4.4)	14.4 (▲4.4)	13.3 (1.2)	12.2 (0.1)	7.6 (▲2.8)	9.9 (▲0.2)

(注1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(注2)括弧内は、前年差を示す。

図表17 購入した高額商品の推移(上位5品目)



図表18 購入した高額商品(上位5品目、属性別)

	一般家電	国内旅行	自動車の購入・維持	海外旅行	家具・インテリア
全体	35.1 (8.7)	32.3 (▲1.6)	28.0 (0.5)	13.8 (▲2.9)	11.0 (0.4)
20歳代	44.4 (11.1)	11.1 (▲1.7)	25.9 (2.8)	25.9 (▲15.1)	37.0 (11.4)
30歳代	29.3 (7.9)	37.3 (▲7.0)	29.3 (5.0)	17.3 (3.0)	14.7 (▲1.0)
40歳代	34.8 (3.9)	37.9 (▲0.9)	33.3 (3.1)	6.1 (▲0.4)	6.1 (▲1.8)
50歳代	35.1 (10.1)	27.5 (▲2.4)	22.1 (▲9.2)	14.5 (▲6.3)	9.9 (4.3)
60歳以上	38.0 (17.0)	33.8 (▲0.1)	28.2 (8.8)	18.3 (0.6)	8.5 (▲4.4)
岐阜県	36.1 (6.3)	31.5 (▲2.8)	27.3 (▲4.6)	9.7 (▲2.8)	7.4 (▲2.3)
愛知県	33.8 (10.6)	34.3 (1.7)	27.9 (6.3)	18.6 (▲3.5)	15.7 (4.1)
専業主婦	34.5 (6.6)	36.4 (▲4.8)	34.5 (11.0)	12.7 (▲2.0)	10.9 (▲5.3)
正社員等	35.7 (11.5)	31.0 (▲0.2)	27.6 (3.4)	18.1 (▲3.4)	14.3 (2.5)
パート	34.2 (5.4)	33.5 (▲1.3)	25.9 (▲7.8)	8.9 (▲4.1)	6.3 (▲1.9)

(注1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(注2)括弧内は、前年差を示す。

第19回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

やしていきたい費目は何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、「レジャー費」(49.0%)がトップとなり、ついで「教育費」(20.6%)、「教養娯楽費」(18.5%)となった(図表16)。

上位3費目は順位の変動はあるものの、7年連続でトップ3を占めている。全ての年代、住所、就業形態に

おいて、「レジャー費」は支出を増やしていきたい費目のトップとなり、主婦は日々の生活の中に楽しみを求めていることがうかがえた。

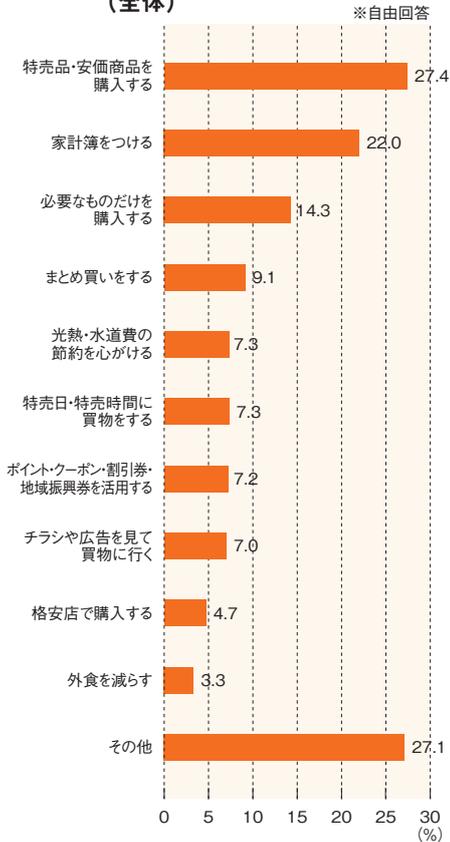
(c)高額商品の購入

次に、高額商品の購入状況について見てみたい。

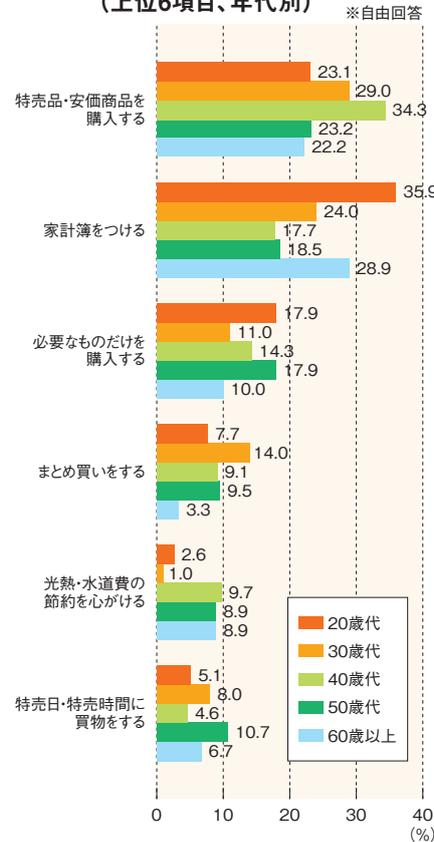
「2016年、1商品10万円以上する

買物をしましたか」と尋ねたところ、図表にはないが全体の57.2%が「購入した」、42.8%が「購入しなかった」と回答、約6割が高額商品を購入しており、この割合は例年と変化がなかった。また、高額商品を「購入した」と回答した人に、「具体的にどんな買物をしましたか(あてはまるも

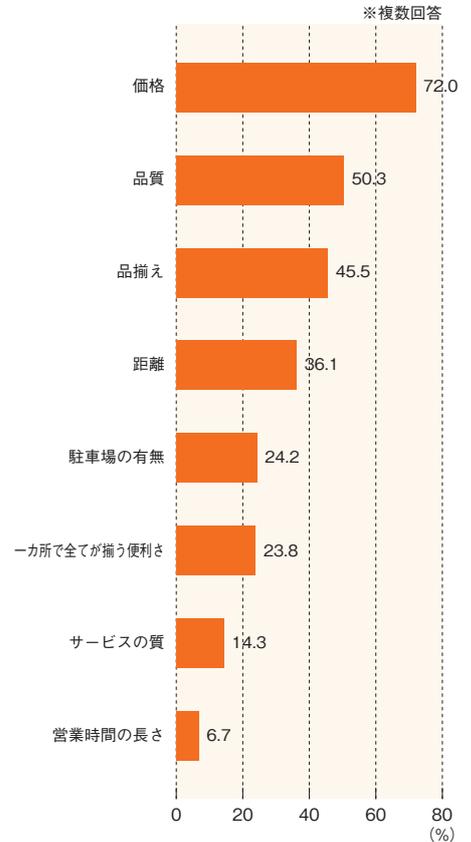
図表19 家計管理で工夫していること (全体)



図表20 家計管理で工夫していること (上位6項目、年代別)



図表21 買物場所の選択基準



図表22 買物場所の年間平均利用回数

	単位: [利用頻度]を除く: 回/年											
	スーパー	コンビニエンスストア	ドラッグストア	複合型SC	ディスカウントストア	100円ショップ	ホームセンター	通信販売	商店街	百貨店	家電量販店	
全体	155.0 (4.5)	74.0 (9.4)	47.8 (1.9)	23.6 (▲0.5)	20.1 (2.9)	18.0 (3.2)	15.6 (▲0.5)	12.1 (1.4)	8.0 (1.0)	5.9 (0.2)	4.3 (0.5)	
20歳代	124.4 (▲0.6)	121.8 (35.9)	49.1 (9.2)	22.7 (▲4.5)	23.5 (0.9)	23.0 (10.6)	11.4 (1.6)	22.3 (3.2)	2.7 (0.0)	5.4 (▲0.1)	3.6 (▲1.0)	
30歳代	117.8 (▲17.9)	78.9 (6.0)	53.2 (2.7)	30.5 (1.6)	21.0 (4.1)	17.5 (0.1)	12.3 (▲0.8)	18.5 (▲0.4)	3.4 (1.0)	4.4 (1.4)	5.1 (1.5)	
40歳代	159.2 (14.2)	79.3 (10.9)	48.9 (4.9)	24.4 (3.6)	22.1 (5.0)	15.9 (0.3)	14.9 (1.4)	8.6 (1.0)	3.4 (1.7)	4.5 (▲1.2)	3.7 (▲0.5)	
50歳代	173.3 (8.3)	62.0 (1.1)	47.7 (▲3.3)	20.5 (▲3.3)	18.1 (0.7)	16.6 (2.6)	16.9 (▲0.5)	9.6 (▲0.1)	8.7 (0.2)	5.8 (▲0.2)	4.1 (0.5)	
60歳以上	165.7 (5.8)	58.5 (13.8)	39.8 (1.6)	20.0 (▲3.3)	16.8 (2.5)	21.8 (9.0)	19.4 (▲5.6)	11.8 (6.4)	22.2 (▲1.5)	10.5 (1.7)	6.0 (2.6)	
岐阜県	148.3 (5.1)	74.8 (14.9)	51.7 (0.9)	22.1 (▲1.9)	22.9 (2.0)	16.9 (3.1)	15.9 (▲0.6)	12.0 (2.3)	11.2 (3.5)	4.7 (0.7)	4.1 (0.3)	
愛知県	161.8 (1.0)	72.4 (0.1)	43.1 (3.2)	26.2 (1.3)	15.8 (3.3)	19.2 (4.0)	14.7 (▲0.9)	11.8 (▲0.7)	3.7 (▲2.4)	7.7 (▲0.5)	4.8 (0.9)	
専業主婦	150.4 (2.3)	61.1 (10.3)	47.2 (▲3.1)	28.5 (▲6.9)	16.6 (1.2)	18.5 (3.0)	16.8 (3.6)	9.3 (▲2.5)	15.6 (7.3)	5.9 (1.3)	4.1 (0.2)	
正社員等	144.5 (1.8)	89.9 (11.6)	45.6 (0.4)	23.6 (2.6)	18.1 (0.6)	16.3 (3.6)	14.3 (▲4.0)	15.0 (▲0.5)	9.9 (2.1)	6.2 (▲0.1)	3.7 (0.4)	
パート	172.8 (15.4)	58.4 (0.9)	50.2 (3.7)	21.6 (▲1.6)	22.9 (5.1)	18.2 (1.8)	16.8 (2.0)	10.4 (3.8)	2.8 (▲2.0)	5.3 (▲0.3)	4.2 (0.1)	
利用頻度(注1)	2.4 (0.0)	4.9 (▲0.8)	7.6 (▲0.4)	15.5 (0.3)	18.2 (▲3.0)	20.3 (▲4.4)	23.5 (0.8)	30.3 (▲3.9)	45.6 (▲6.2)	62.3 (▲1.6)	85.4 (▲10.9)	

(注1)「利用頻度」とは、「全体」において、それぞれの業態に訪れる間隔を日数単位で表したものを示す。スーパーであれば2.4日に1回利用するとの意味。
 (注2)括弧の中の数字は、前年利用回数および前年利用頻度との差を示す。

のを全て選択)」と尋ねたところ、「一般家電」(35.1%)がトップとなり、ついで「国内旅行」(32.3%)、「自動車の購入・維持」(28.0%)となった(図表17、図表18)。2016年は、国内で地震が多発し、国内旅行を控える傾向がみられた。こうした点が、前回最多であった「国内旅行」の回答率の低下につながったと思われる。また、リオ五輪に向けた高画質テレビをはじめとする高付加価値製品を中心とした更新需要などにより、「一般家電」が最多になったものと思われる。

D. 家計管理の工夫について

それでは、主婦はどのように家計管理を工夫しているのだろうか。

「家計管理をする中で、工夫していることは何ですか(自由回答)」と尋ねたところ、「特売品・安価商品を購入する」が27.4%でトップとなり、ついで「家計簿をつける」(22.0%)、「必要なものだけを購入する」(14.3%)となった(図表19)。

年代別にみると、20歳代、60歳以上で「家計簿をつける」(35.9%、28.9%)、30歳代、40歳代、50歳代で「特売品・安価商品を購入する」(29.0%、34.3%、23.2%)がそれぞれ最多となった。家計を預かる主婦は、家計簿をつけることによって家計の実態を把握し、特売品・安価商品を購入することによって節約し、財布の紐を固く締めながら家計管理を行っていることがうかがえた(図表20)。

E. 買物場所について

では、主婦は実際に商品を購入する場所をどのように選択し、利用しているのだろうか。

(a) 買物場所の選択基準

まず、「あなたが買物場所を選択するにあたり、重視する点は何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、「価格」が全体の72.0%と最も高く、ついで「品質」(50.3%)、「品揃え」(45.5%)となった(図表21)。

上位3項目は2015年と変わらず、回答率にも大きな増減はみられなかった。図表にはないが、年代別にみると、60歳以上を除いて「価格」が最多となり、特に20歳代では85.5%の高い回答率となった。相対的に家計収入が少ないとみられる若年層は、価格に敏感にならざるを得ないと思われる。

(b) 買物場所の利用頻度

上記の選択基準をふまえて、実際に主婦はどのような店を利用しているのであろうか。

図表22は、主婦の買物場所(11業態)の利用頻度を1年間の平均利用回数に換算した結果である。

主婦が最もよく利用する店は従来通り「スーパー」で、1年間に155.0回(2.4日に1回)の頻度で利用されている。ついで「コンビニエンスストア」(4.9日に1回)、「ドラッグストア」(7.6日に1回)が利用されていた。特記すべきは、全ての年代、住所、就業形態において、「コンビニエンスストア」の利用が増加し、前回調査では5.7日に1回の利用であったが、今回調査では4.9日に1回と

なったことである。定価販売のコンビニエンスストアは、価格にシビアな主婦からは避けられやすい点はあるが、近年は価格を抑えたPB商品の品揃えを増やしたり、安価なコーヒーなどの新商品を扱うようになってきた。また商品購入以外でも、ATMの利用、公共料金などの支払い、宅配便の発送、通信販売・ネットショッピングの支払いなど、消費者の多様なニーズを取り込んで、様々なサービスを展開しており、その利便性が主婦にも幅広く支持されたのではないかと思われる。

4 時事調査: 「主婦の料理」について

今回の調査では、「主婦の料理」に関するアンケートを10年前(2006年)とほぼ同じ内容で行った。

(1) 誰の料理を食べてみたいか

「この人の料理を食べてみたいと思う有名人、芸能人は誰ですか」と尋ねたところ、最も多かったのは「速水もこみち」で全体の29.9%を占めた。以下、「SMAP」、「栗原はるみ」が続いた(図表23-1)。「速水もこみち」は全ての年代でトップとなり、幅広い年齢層から支持を得た。情報番組の料理コーナーにレギュラー出演するほか、レシピ本やキッチングッズをプロデュースするなど、料理通として定評があることが主因とみられる。ちなみに、10年前(2006年)の調査では「速水もこみち」は名前が挙がらず、「SMAP」がトップであった(図表23-2)。

第19回 「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

(2) 得意料理

「あなたの得意料理は何ですか」と尋ねたところ、「煮物」が全体の25.3%と最も多く、以下、「ハンバーグ」、「カレーライス」と続いた(図表24)。煮物のうち、特定の料理名は45品目挙がったが、なかでも「肉じゃが」の回答が多かった(煮物に占める割合の22.4%)。この上位3品目は10年前(2006年)と同じで、主婦の得意料理はこの10年間であまり変化がないようだ。

また、年代別にみると、年代が高くなるにつれて「ハンバーグ」の回答率は低下傾向である一方、「煮物」の回答率が高くなる傾向がある(図表25)。これは年代ごとの家族構成の違いや料理の好みの変化があると思われる。また家庭独自の味付けや調理方法がある「煮物」は、ベテラン主婦による火加減、さじ加減が大事であり、料理の経験を重ねていくことによって、次第に家庭の味になっていくことが背景にあると思われる。

前述の得意料理に併せて、「その料理のレシピはどのようにして知りま

したか」と尋ねたところ、「母親」が全体の40.1%と最も多く、以下、「自分で創作(オリジナル)」、「クックパッドなどのレシピサイト」と続いた(図表26)。全ての年代、住所、就業形態において「母親」がトップとなり、今でも料理を介した母娘のコミュニケーションが続いていることがうかがえた。ただし、10年前と比べると、20歳代、30歳代を中心にその回答率は低下している。

また年代別にみると、年代が高くなるにつれて、「自分で創作(オリジナル)」の回答率が高くなり、60歳以上では3割近くとなった。料理の経験を重ねることによって、次第に料理の腕が上がり、これまでの知識と感覚に裏打ちされた新しい料理が生まれているようだ。

また、10年前(2006年)の調査時には選択肢になかった「クックパッドなどのレシピサイト」の活用がこの10年で進んでおり、特に20歳代、30歳代などの若年層において、3人に1人が活用していることが分かった。レシピサイトの活用拡大が影響したのか、10年前(2006年)と比較すると、

全ての属性において「レシピ本」及び「料理番組」の回答率が低下した。ちなみに10年前(2006年)の調査では、「レシピ本」が2位であった。冷蔵庫の中にあるものなどをキーワードとして検索するだけで、複数の料理方法が素早く表示され、代替品の提案まで掲載されているレシピサイト。その簡便性を最近の主婦は上手く活用しているようだ。

また、「得意料理を最も食べさせたい人は誰ですか」と尋ねたところ、「子ども」が全体の58.8%、「夫」が35.8%となった(図表27)。10年前(2006年)と比べると、全ての属性において、「子ども」が上昇し、「夫」が低下している。

年代別にみると、20歳代、60歳以上で「夫」の回答率が高く、育ち盛りの子どもの持つ30~50歳代では「子ども」の回答率が高かった。

(3) おふくろの味

「あなたにとって、いわゆる『おふくろの味』と言えば何ですか」と尋ねたところ、「煮物」が42.9%と最も多く、以下、「みそ汁」、「炊き込みご

図表23-1 料理を食べたい有名人・芸能人(2016年)(%)

順位		有名人	回答率
1	(-)	速水もこみち	29.9
2	(1)	SMAP	5.8
3	(-)	栗原はるみ	5.5
4	(-)	平野レミ	3.8
5	(3)	タモリ	3.6
5	(-)	ローラ	3.6
7	(-)	ロバート馬場	2.3
8	(-)	みきママ(藤原美樹)	1.8
8	(-)	土井善晴	1.8
10	(2)	グッチ裕三	1.5

(注)括弧内は、2006年の順位を示す。以下、図表、本文ともに敬称略。

図表23-2 料理を食べたい有名人・芸能人(2006年)(%)

順位		有名人	回答率
1		SMAP	22.7
2		グッチ裕三	8.6
3		タモリ	8.3
4		梅宮辰夫	5.1
5		細木数子	4.9
6		木村祐一	4.4
7		梅沢富美男	3.7
8		杉本彩	3.6
9		未唯	2.5
10		道場六三郎	2.4

図表24 得意料理(%)

順位		料理名	回答率
1	(1)	煮物	25.3
2	(2)	ハンバーグ	12.3
3	(3)	カレーライス	8.7
4	(8)	唐揚げ	5.4
5	(4)	餃子	4.7
6	(-)	みそ汁	2.9
7	(-)	オムライス	2.8
8	(5)	パスタ料理	2.5
9	(-)	コロッケ	1.8
10	(10)	グラタン	1.7

(注)括弧内は、2006年の順位を示す。

飯」と続いた(図表28)。煮物のうち、特定の料理名は36品目挙げられたものの、回答は「肉じゃが」(33.3%)に集中しており、家庭の懐かしい味として定着していることがうかがえた。

図表にはないが、年代別にみると、どの年代でも「煮物」、「みそ汁」が1位と2位を占めており、この2品の回答率の合計は約5割となった。また10年前(2006年)の調査と比較すると、上位4位までは同じであった。

ちなみに、いわゆる「おふくろの味」と同じ料理を作った際、その料理に対して自己採点(母親の料理

が100点)してもらったところ、年代が高くなるほど、概ね点数が上がる傾向となった(図表29)。一方、80点以上を採点した割合を年代間で比較すると、年代が高くなるにつれ、80点以上の点数をつける割合が概ね高くなり、料理の回数に比例して母親の味に近づいていると感じる主婦が多いと思われる(図表30)。

(4) 夫の手伝い

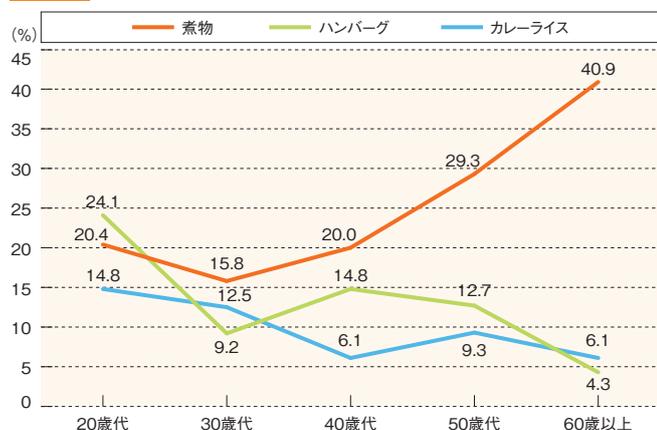
「料理に関する家事で、ご主人は主にどのようなことを手伝ってくれますか」と尋ねたところ、「何も手伝ってくれない」が全体の36.6%と最も多く、以下、「食材の買出し」、「後片

付けのみ(食器洗いを含む)」と続いた(図表31)。10年前(2006年)の調査と比較すると、上位3位までは同じであった。

年代別にみると、年代が高くなるほど、料理に関する家事を手伝わない夫が多かった。一方、20歳代、30歳代において約3割の夫が「後片付けのみ(食器洗いを含む)」を手伝っており、特に30歳代では、10年前(2006年)の調査時より10%以上上昇した。若年層において男性の家事参加が浸透し始めていることがうかがえた。

併せて、「ご主人はどのくらいの頻度で料理を作ってくれますか」と

図表25 煮物、ハンバーグ、カレーライスの年代別回答率



図表27 得意料理を最も食べさせたい人(属性別)

	子ども	夫	親	友人	その他
全体	58.8 (16.7)	35.8 (▲13.6)	1.6 (▲0.6)	1.3 (0.4)	2.6 (▲2.9)
20歳代	18.5 (6.2)	74.1 (▲6.6)	7.4 (3.9)	0.0 (▲3.5)	0.0 (0.0)
30歳代	54.3 (2.8)	39.7 (▲5.1)	2.6 (0.5)	2.6 (2.6)	0.9 (▲0.7)
40歳代	78.2 (24.0)	20.4 (▲17.6)	0.4 (▲0.8)	0.9 (0.9)	0.0 (▲6.6)
50歳代	61.5 (32.1)	34.6 (▲24.3)	1.0 (▲2.4)	0.5 (▲0.9)	2.4 (▲4.4)
60歳以上	37.5 (15.2)	47.1 (▲9.8)	1.0 (▲0.7)	2.9 (▲0.5)	11.5 (▲4.0)
岐阜県	61.7 (17.8)	33.7 (▲14.2)	1.8 (0.1)	0.5 (▲0.2)	2.3 (▲3.6)
愛知県	54.6 (15.4)	39.2 (▲13.0)	1.4 (▲1.0)	2.4 (1.2)	2.4 (▲2.5)
専業主婦	42.1 (8.2)	50.5 (▲9.8)	0.0 (▲1.7)	2.1 (2.1)	5.3 (1.1)
正社員等	51.9 (17.6)	41.7 (▲12.4)	1.9 (▲1.7)	1.0 (▲1.7)	3.5 (▲1.9)
パート	72.4 (21.2)	24.0 (▲17.6)	1.5 (0.0)	1.5 (1.5)	0.7 (▲5.0)

(注1) 色付きセルは、各属性別における、最も回答率の高い項目。
(注2) 括弧内は、2006年との差を示す。

図表26 得意料理のレシピ取得元(属性別)

	母親	自分で創作(オリジナル)	クックパッドなどのレシピサイト	レシピ本	料理番組	友人	料理学校	祖母	姉妹	近所の人	親戚	(スーパーなどの)店員	その他
全体	40.1 (▲6.5)	17.4 (0.0)	16.5 -	16.4 (▲12.3)	4.9 (▲4.5)	3.0 (▲2.2)	2.8 (▲1.2)	2.0 (▲0.2)	0.7 (▲1.9)	0.6 (0.1)	0.4 (▲0.3)	0.1 (0.0)	3.0 (0.8)
20歳代	48.1 (▲15.7)	7.4 (4.0)	33.3 -	9.3 (▲26.9)	0.0 (▲3.4)	1.9 (1.9)	0.0 (▲3.4)	3.7 (2.0)	1.9 (▲1.5)	0.0 (0.0)	1.9 (1.9)	0.0 (0.0)	0.0 (▲1.7)
30歳代	33.6 (▲16.2)	12.9 (1.3)	32.8 -	13.8 (▲16.6)	1.7 (▲3.1)	1.7 (▲2.6)	2.6 (▲1.3)	1.7 (▲0.2)	0.0 (▲1.9)	0.0 (0.0)	0.0 (▲1.0)	0.0 (0.0)	3.4 (2.0)
40歳代	43.1 (2.3)	14.2 (▲6.2)	15.6 -	17.8 (▲11.6)	3.6 (▲5.4)	2.2 (▲2.3)	2.2 (▲1.9)	1.8 (1.0)	0.0 (▲0.8)	0.0 (▲0.8)	0.4 (0.0)	0.0 (▲0.4)	3.6 (1.2)
50歳代	41.4 (▲0.1)	20.2 (▲4.3)	8.9 -	18.7 (▲7.1)	8.9 (▲6.8)	3.4 (▲2.9)	2.5 (▲1.9)	1.5 (▲1.0)	1.0 (▲3.4)	0.0 (▲0.6)	0.0 (▲1.3)	0.0 (0.0)	2.0 (▲1.8)
60歳以上	34.5 (▲22.0)	28.2 (8.8)	7.3 -	15.5 (▲5.5)	6.4 (▲9.7)	5.5 (▲7.4)	6.4 (3.2)	2.7 (▲5.4)	1.8 (▲4.7)	3.6 (2.0)	0.9 (0.9)	0.9 (0.9)	4.5 (4.5)
岐阜県	42.8 (▲4.7)	15.6 (▲1.4)	14.4 -	15.1 (▲13.2)	5.4 (▲4.6)	3.1 (▲2.3)	3.1 (▲0.9)	2.8 (0.3)	0.8 (▲1.4)	0.8 (0.4)	0.8 (0.1)	0.0 (▲0.2)	3.3 (0.8)
愛知県	36.1 (▲10.0)	19.0 (2.9)	19.4 -	18.0 (▲11.5)	4.1 (▲4.6)	3.1 (▲1.6)	2.7 (▲1.2)	1.0 (▲1.0)	0.7 (▲1.7)	0.3 (▲0.5)	0.0 (▲0.8)	0.0 (0.0)	2.7 (0.7)
専業主婦	38.3 (▲10.9)	22.3 (0.1)	21.3 -	13.8 (▲15.6)	5.3 (▲5.0)	2.1 (▲2.7)	1.1 (▲3.7)	1.1 (▲2.9)	0.0 (0.0)	1.1 (1.1)	1.1 (1.1)	0.0 (0.0)	2.1 (1.3)
正社員等	42.9 (▲5.8)	13.6 (▲3.1)	19.6 -	15.5 (▲11.4)	4.7 (▲3.8)	3.2 (▲1.5)	3.2 (▲0.6)	2.2 (▲0.4)	1.3 (▲4.3)	0.6 (▲0.7)	0.0 (▲0.4)	0.3 (▲0.1)	3.8 (1.7)
パート	38.3 (▲5.1)	18.8 (2.4)	10.8 -	18.8 (▲11.1)	5.4 (▲4.7)	3.2 (▲1.7)	3.2 (▲0.2)	1.8 (0.7)	0.4 (▲1.3)	0.4 (0.1)	0.4 (▲0.7)	0.0 (0.0)	2.5 (▲0.1)

(注1) 色付きセルは、各属性別における、最も回答率の高い項目。(注2) 括弧内は、2006年との差を示す。

第19回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

尋ねたところ、「作ってくれない」が全体の60.3%と最も多かった(図表32)。年代別にみると、前問と同様に年代が高くなるほど、料理をしない夫が多かった。一方、20歳代、30歳代、40歳代は月に1~2回ほど料理をしている夫が約2割だった。1990年代に家庭科の男女共修が始まり、若年層ほど学生時代から料理をする経験をしていることが背景の一つになっているのではないと思われる。

「料理に関する家事で、ご主人に最低限手伝って欲しいことは何ですか」と尋ねたところ、「後片付けのみ(食器洗いを含む)」が全体の

37.4%で最も多く、以下、「何も手伝わなくて良い」、「メニューの決定」と続いた(図表33)。年代別にみると、年代が高くなるほど「何も手伝わなくて良い」の回答率が高くなった。一方、20歳代の6割超、30歳代の4割超がご主人に「後片付けのみ(食器洗いを含む)」を望んでおり、10年前(2006年)の調査と比較するとその回答率は10%以上上昇した。

共働き世帯が増加する中、従来型の「男性は外で仕事、女性は家庭で家事・育児」という性別役割分業の意識が、若年層において変化しつつあるようだ。

(5) 男性が身につけるべき料理

最後に「男性もこれくらいは料理ができないと、と思う料理は何ですか」と尋ねたところ、「カレーライス」が全体の24.7%と最も多く、以下、「みそ汁」、「チャーハン」と続いた(図表34)。図表にはないが、年代別にみると、上位3位はどの年代でも上位を占め、幅広い年齢層で共通の認識を持っていることが分かった。また、10年前(2006年)の調査と比較すると、上位5位までは同じであった。

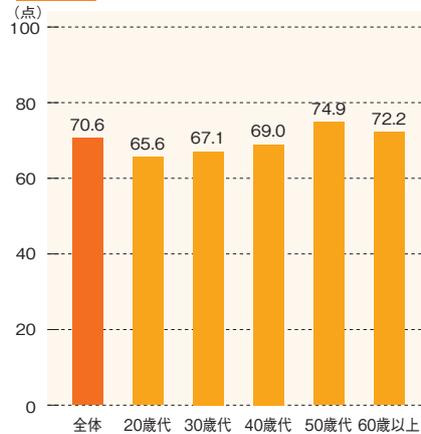
前回調査、今回調査ともに、第4位に「ご飯を炊く」が挙がっている。近年は炊飯器が進化しており、従来機種よりふっくら美味しいご飯が炊ける

図表28 おふくろの味

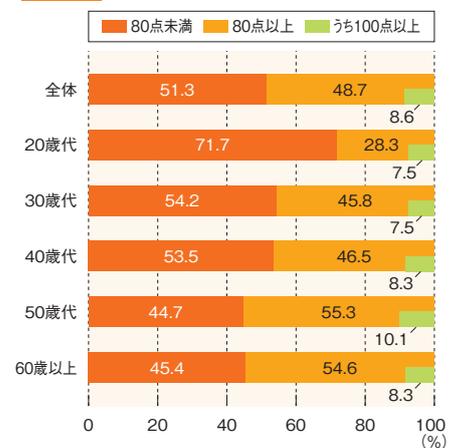
順位	料理名	回答率 (%)
1 (1)	煮物	42.9
2 (2)	みそ汁	12.7
3 (3)	炊き込みご飯	7.6
4 (4)	寿司	3.5
5 (7)	カレーライス	3.0
6 (8)	玉子焼き	2.8
7 (5)	茶碗蒸し	2.1
8 (-)	コロッケ	1.6
8 (-)	ハンバーグ	1.6
8 (-)	餃子	1.6

(注)括弧内は、2006年の順位を示す。

図表29 自分の料理への採点(年代別平均点)



図表30 点数別構成比(年代別)



図表31 夫が手伝ってくれる内容(属性別)

	何も手伝ってくれない	食材の買出し	後片付けのみ(食器洗いを含む)	メニューの決定	調理まで(後片付けはしない)	メニューの決定から後片付けまで全て	火を使う工程(焼く、煮るなど)	具材を切る	その他
全体	36.6 (2.2)	23.1 (3.4)	17.0 (▲2.7)	7.6 (1.9)	3.8 (▲3.3)	3.7 (▲0.6)	2.0 (▲2.9)	0.3 (▲1.0)	5.9 (3.0)
20歳代	13.7 (▲3.5)	25.5 (11.7)	29.4 (▲6.8)	19.6 (12.7)	0.0 (▲6.9)	7.8 (0.9)	2.0 (▲4.9)	0.0 (▲1.7)	2.0 (▲1.4)
30歳代	23.4 (▲4.4)	23.4 (2.7)	29.8 (10.1)	7.3 (▲0.3)	4.8 (▲1.3)	5.6 (0.0)	1.6 (▲6.0)	0.0 (▲1.5)	4.0 (0.5)
40歳代	33.9 (▲3.7)	26.1 (8.5)	15.7 (▲2.3)	5.7 (1.6)	4.3 (▲4.3)	5.7 (0.8)	3.0 (▲2.3)	0.0 (▲1.2)	5.7 (2.8)
50歳代	43.6 (9.2)	22.7 (▲3.9)	12.8 (▲4.7)	9.0 (1.2)	3.3 (▲4.5)	0.9 (▲1.0)	1.9 (0.0)	0.5 (▲0.1)	5.2 (3.9)
60歳以上	52.9 (▲6.1)	16.8 (3.7)	8.4 (▲8.0)	4.2 (4.2)	4.2 (0.9)	0.8 (▲0.8)	0.8 (0.8)	0.8 (▲0.8)	10.9 (6.0)
岐阜県	38.1 (2.8)	22.2 (3.3)	15.2 (▲3.9)	7.8 (2.6)	3.9 (▲4.1)	3.7 (▲1.1)	2.2 (▲2.8)	0.0 (▲0.9)	6.8 (4.1)
愛知県	34.6 (2.9)	24.5 (3.2)	19.5 (▲1.8)	7.4 (1.0)	3.4 (▲2.6)	4.0 (0.8)	1.7 (▲3.1)	0.7 (▲0.9)	4.4 (0.8)
専業主婦	32.3 (0.3)	17.2 (▲2.0)	22.2 (▲2.6)	13.1 (9.1)	3.0 (▲3.4)	4.0 (2.4)	2.0 (▲2.8)	0.0 (▲1.6)	6.1 (0.5)
正社員等	34.4 (▲3.3)	24.5 (6.6)	16.1 (▲3.2)	7.7 (1.9)	4.6 (▲0.8)	4.3 (▲1.1)	1.5 (▲3.0)	0.3 (▲1.5)	6.5 (4.3)
パート	40.8 (6.9)	24.0 (2.8)	16.8 (▲0.9)	6.2 (▲0.2)	3.1 (▲5.0)	2.1 (▲2.2)	2.1 (▲3.1)	0.3 (▲0.6)	4.8 (2.5)

(注1) 色は、各属性別における、最も回答率の高い項目。(注2)括弧内は、2006年との差を示す。

ようになってきている。男性の方々は、まずは休日の時間のある時に、料理の基本からスタートして、少しずつレパートリーを広げていくと、家族の満足度も向上すると思われる。また、料理をきっかけとして、家族とのコミュニケーションも生まれれば、男性自身の心も満たしてくれるのではないだろうか。

5 おわりに

今回の調査結果から明らかになった主婦の消費行動及び料理の特徴について、以下の3点にまとめてみたい。

第1に、消費者物価指数が低下し、デフレ脱却への道半ばにある中、主婦の物価観は依然として厳しかった点である。この要因の一つとして、2016年は天候不順の影響により生鮮食品の価格が急上昇し、「食費」などの基礎的支出が増加したことが挙げられよう。生活必需品である生鮮食品の価格の高騰は、家計を守る主婦にとって、価格に対する意識を敏感にさせ、物価観に対して大きな影響を与えたものと思われる。

第2に、政府が賃上げを求める「官製春闘」が注目される中、家計収入は若年層を中心に微増するにとどまった点である。家計を取り巻く

環境は厳しく、不要不急の支出は控え、節約志向が一段と強まっていることが支出状況からもうかがえた。

第3に、主婦にとって「得意料理」、「おふくろの味」は、10年前(2006年)も今も変わらず、「煮物」であった点である。煮物の中でも特に「肉じゃが」が家庭の味として定着しており、料理を通じて母娘のコミュニケーションが続いていることが分かった。また、年齢が高くなるほど何も手伝わぬ夫が多かったが、若年層ほど夫が料理を手伝っており、今後、男性の料理参加に期待したい。

図表32 夫が料理を作ってくれる頻度(属性別)

	作ってくれない	月1~2回	週1回	週2~3回	ほぼ毎日	その他
全体	60.3	16.2	6.7	4.6	3.6	8.6
20歳代	48.1	20.4	13.0	7.4	7.4	3.7
30歳代	52.0	20.8	10.4	9.6	1.6	5.6
40歳代	57.9	19.1	8.1	3.8	1.7	9.4
50歳代	64.3	13.6	5.2	1.4	4.2	11.3
60歳以上	72.4	7.8	0.0	5.2	6.9	7.8
岐阜県	59.6	16.8	6.3	3.9	3.4	10.0
愛知県	61.3	15.1	7.9	5.2	3.9	6.6
専業主婦	61.9	12.4	6.2	8.2	3.1	8.2
正社員等	55.1	20.1	6.3	4.8	5.1	8.7
パート	66.7	13.4	7.6	2.7	1.7	7.9

(注1) 色付きは、各属性別における、最も回答率の高い項目。

図表34 男性が身につけるべき料理(%)

順位	料理名	回答率
1 (1)	カレーライス	24.7
2 (2)	みそ汁	14.0
3 (3)	チャーハン	11.0
4 (4)	ご飯を炊く	4.6
5 (5)	野菜炒め	3.7
6 (7)	玉子焼き	3.5
7 (6)	煮物	2.7
8 (10)	焼きそば	2.4
9 (-)	炒め物	2.3
10 (-)	パスタ料理	1.7
10 (9)	ラーメン	1.7

(注) 括弧内は、2006年の順位を示す。

図表33 夫に最低限手伝って欲しい内容(属性別)

	後片付けのみ (食器洗いを含む)	何も手伝わなくて良い	メニューの決定	食材の買出し	メニューの決定から 後片付けまで全て	調理まで (後片付けはしない)	火を使う工程 (焼く、煮るなど)	具材を切る	その他
全体	37.4 (6.1)	21.1 (4.9)	13.2 (▲0.4)	12.7 (▲5.6)	5.0 (▲3.4)	3.5 (▲1.9)	1.1 (▲1.4)	0.4 (▲0.6)	5.5 (2.2)
20歳代	64.7 (18.9)	9.8 (1.3)	15.7 (2.1)	5.9 (▲7.7)	2.0 (▲6.5)	0.0 (▲5.1)	0.0 (0.0)	0.0 (▲3.4)	2.0 (0.3)
30歳代	44.4 (10.9)	16.1 (6.1)	12.1 (▲0.9)	13.7 (▲6.3)	4.8 (▲3.7)	3.2 (▲4.3)	0.0 (▲3.0)	0.8 (▲0.7)	4.8 (1.8)
40歳代	37.1 (5.4)	18.1 (4.3)	12.9 (▲4.2)	12.1 (▲5.4)	6.9 (▲1.2)	4.3 (▲0.6)	1.7 (▲2.0)	0.4 (0.0)	6.5 (3.7)
50歳代	34.3 (5.9)	22.9 (1.0)	13.3 (4.3)	14.3 (▲5.7)	4.8 (▲6.2)	3.3 (▲1.2)	1.9 (0.0)	0.0 (0.0)	5.2 (2.0)
60歳以上	24.1 (8.0)	34.5 (▲4.2)	13.8 (0.9)	12.9 (▲3.2)	3.4 (0.2)	4.3 (1.1)	0.0 (0.0)	0.9 (▲0.7)	6.0 (▲2.1)
岐阜県	34.9 (4.9)	20.9 (3.6)	13.0 (▲1.5)	13.0 (▲4.5)	4.7 (▲3.9)	4.4 (▲0.1)	1.2 (▲1.3)	0.2 (▲0.9)	7.6 (3.7)
愛知県	40.3 (7.0)	20.1 (5.8)	13.8 (1.5)	12.8 (▲7.8)	6.0 (▲1.9)	2.7 (▲3.6)	0.7 (▲1.7)	0.7 (▲0.1)	3.0 (1.0)
専業主婦	38.9 (4.3)	18.9 (3.9)	13.7 (▲0.5)	14.7 (▲3.4)	4.2 (▲6.0)	3.2 (0.8)	2.1 (1.3)	0.0 (▲0.8)	4.2 (0.3)
正社員等	35.6 (9.1)	20.5 (▲0.7)	13.9 (▲0.3)	13.0 (▲6.9)	4.8 (▲3.6)	5.1 (1.1)	0.6 (▲1.2)	0.6 (▲0.3)	5.7 (2.6)
パート	39.4 (6.2)	23.0 (10.0)	12.5 (▲0.8)	11.8 (▲5.5)	5.2 (▲2.6)	1.4 (▲6.1)	1.4 (▲2.1)	0.3 (▲0.6)	4.9 (1.4)

(注1) 色付きは、各属性別における、最も回答率の高い項目。
(注2) 括弧内は、2006年との差を示す。

(2017.1.25) OKB総研 調査部 陸田 いずみ、中島 奈美